

# 清水探訪

第9回

## 【佐々木家の清水】

(仙南地区 境田)

清水探訪第6回で紹介した伊豆神社の清水を有する境田地区には、他にもいくつかの清水があります。佐々木徹男さん（上中野町）宅の東側に湧く清水は、その中でも良泉として知られるひとつです。

15年ほど前から湧出量が減りだし、秋から冬にかけては水量がわずかになってしまっていますが、以前は2軒の飲み水を始めた生活用水として、また一部は水田の灌漑用水として使用できるほどの豊かな水量を誇っていました。そして、こうした清水は佐々木家の清水だけではなく、境田地区のあちこちに存在していました。

しかし、水に恵まれたこの地区も一方ではその水に悩まされていたようです。佐々木さんは「田んぼのあちこちで水が湧き、冷や水がかりの稲は秋になっても青いままで収穫できない。父親たちの世代までは本当に苦労したと思う」と当時の状況を語ります。また、子どもの頃から水と人との関わりを見つめてきたからか、「水は蛇口をひねれば出るもの」という近年の風潮には抵抗を感じると言います。

《清水は、地域みんなのものです。保存・保全に地域みなさんのご協力を》

問い合わせ ● 町商工観光交流課 観光班 ☎0187-84-4909

## 美郷町は自然豊かな環境を大切にす美しい町です。 不法投棄は絶対にやめましょう。

11月8日に町民の皆さんや町不法投棄監視人、秋田県産業廃棄物協会 県南支部、大仙保健所職員など32名が参加し、仙南地区に不法投棄されている廃棄物の撤去作業が行われました。

作業を行った場所は飯詰字東西法寺地内（後三年鴻声の里付近）と金沢西根字糠淵地内（墓地公園付近）の2箇所。約3時間の作業で、不法投棄された田植え機械や育苗箱、石膏ボード、タイヤ等の産業廃棄物のほか、不燃ごみ1t、可燃ごみ500kgをトラックに積み込み、大仙クリーンセンターへと搬入しました。

不法投棄は廃棄物処理に関する法律や河川法により罰せられます。ささいな出来心で多額の経費や信用を失うなどの犠牲を払わないよう、ごみは町で決められた方法で指定された場所に出すようにしましょう。



現在、田畑の耕作面積が約49ヘクタールという大規模経営に取り組む佐々木さんからは、常に水を意識している様子うかがえます。育苗に使用する水を水路の水から地下水に切り替え、病気に強い苗づくりに取り組んでいるのもそのひとつです。また、ハウスで栽培しているメロンの糖度が高く、口コミでひっぱりだこなのも、使用する地下水による効果ではないかと考えています。

「農業は水のいい所が勝つ」という佐々木さんの言葉には、屋敷内にある清水はもとより、境田地区の水に対する揺るぎない自信と愛情が隠されているようでした。



# 水の郷

シンポジウム2010

～かけがえのない水環境を守ろう～

水の郷シンポジウム2010（町主催）が10月30日に美郷町公民館で行われ、町民の皆さん約300名が参加しました。シンポジウムでは作家でもあり森林再生に取り組むC.W.ニコルさんが「心に木を植える」と題して基調講演を行うなど、水環境について考える貴重な場となりました。

**水**の郷シンポジウムは「水の大切さ」や「恵まれた自然環境のありがたさ」についてさらなる認識を深めるとともに「森と水を大切にす」美郷町を町内外に発信することを目的に開催され、今年で3回目を迎えます。

シンポジウムに先立ち、松田町長は「このシンポジウムを機会に、町民の方々に水環境について考えを持っていただき、水環境を保全する活動を実践してほしい」とあいさつを述べました。続いて、平成22年度「水環境マイスター養成講座」全課程修了生への修了証の授与、水に関する読書感想文コンクールの表彰が行われました。

C.W.ニコルさんの基調講演の後には、今年度の水環境学習モデル校である六郷小学校の5年生児童が六郷地区の清水の水質調査について発表を行い、最後に「地域の水がきれいになり、自分たちの町が誇らしく思えた。今自分たちにできることをしっかり考え、ずっとずっと地域の水がきれいであるようにしていきたい」と語ってくれました。また、六郷中学校の科学部はイバラトミヨの調査と人工装置での繁殖について発表を行いました。

シンポジウムではこのほか、秋田県七滝土地改良区事務長の藤岡義博さんによる水涵養の事例報告が行われ、来場した皆さんは水の大切さや水環境保全活動について理解を深めた様子でした。

## 水は森の母であり、人の心の古里—— C.W.ニコルさん基調講演

イギリス・ウェールズ出身のニコルさんは17歳でカナダに渡り、海洋哺乳類の研究に従事。1962年に空手修行のために初来日し、以降、日本の豊かな自然に興味を持つようになり。80年には長野県信濃町に移り住み、執筆活動を行いながら荒れた森の再生に取り組んでいます。

ニコルさんは森林再生のためには木を間引いて地面まで日光が当たるようにすることが大切だと指摘しました。また、多様な植物が生えて動物が戻り、にぎやかになった実際の森の様子を写真で紹介。「森はきれいな水を生み、人の心も癒やしてくれる。人間が愛情を持ち、汗を流し努力をしたら自然の傷は治せる」と力説し、来場した町民の皆さんに環境保全活動の必要性を訴えました。

水の郷シンポジウム2010は秋田県水と緑の森づくり税を活用して開催されました。

## 平成23年7月1日開催 全国名水サミットin美郷

全国水環境保全市町村連絡協議会全国大会（通称：全国名水サミット）は、環境庁（当時）が選定した「名水百選」を有する市町村が連携して水環境保全の推進と水質保全意識の高揚を図ることを目的に開催されています。今年6月4日に佐賀県小城市で開催された第24回大会で、平成23年度の開催地が美郷町に決定しました。現在、協議会に参加している自治体は全国170市町村にのぼります。

## 水を学ぼう



▲学習発表を行う六郷小学校5年生児童の皆さん（左上）と六郷中学校科学部の皆さん（右下）